

介護施設における看護職のための
系統的な研修プログラム

実務者向け

のご提案



公益社団法人 **日本看護協会**
事業開発部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
TEL.03-5778-8548 FAX.03-5778-5602
協会ホームページ ▶ <http://www.nurse.or.jp/>

2012.7 作成



公益社団法人 **日本看護協会**
Japanese Nursing Association

はじめに

日本看護協会 看護師職能委員会Ⅱ 介護・福祉関係施設・在宅等領域

委員長 齋藤 訓子

近年、介護施設を取り巻く環境は、入居者の医療的ケアの増加や要介護度の上昇など大きく変化しています。こうした状況を鑑み、日本看護協会では、介護・福祉関係施設・在宅等領域における看護の機能強化を目指し、平成23年度に看護師職能委員会Ⅱ 介護・福祉関係施設・在宅等領域 を立ち上げました。

介護施設における看護職には、一人ひとりに専門的知識・技術および施設全体を視野に入れたマネジメント能力等が求められます。しかしながら看護の専門性の向上を目的とした研修の機会が少ない上、体系的なプログラムになっていないことから、求められる広範な領域の知識・技術を段階的に修得することが困難な現状にあります。

そこで看護師職能委員会Ⅱは、看護実務者がおさえておきたい研修を系統的にまとめ、「介護施設における看護職のための体系的な研修プログラム」を作成しました。

本研修プログラムが介護施設や都道府県看護協会、関係団体等で研修を企画する際、および今後、形成すべき介護施設における看護の能力を検討する際等に広く活用され、介護施設で働く看護職の機能を強化する一助となることを願っています。

本研修プログラムの特徴

1

実務者に求められる「マネジメント能力の視点」を盛り込みました

介護施設では、少数の看護職が多職種と連携してケアを提供するため、看護職の実務者にも、施設全体をマネジメントする役割が求められます。そのため本研修プログラムは、各研修項目にマネジメント能力育成の視点を盛り込みました。

2

介護施設で必要とされる研修プログラムの項目を、3つの系統にまとめました

介護施設では、生活の場で看護を提供することが求められるため、看護職は看護の専門的知識や技術について、入居者の生活を支える視点から改めて修得する必要があります。本研修プログラムは、専門職として必要とされる看護の知識、技術について、「Ⅰ 介護施設の特徴と看護の役割」、「Ⅱ 看護実践のための知識・技術」、「Ⅲ 実践効果を活かすための知識・技術」の3つの系統にまとめました。

3

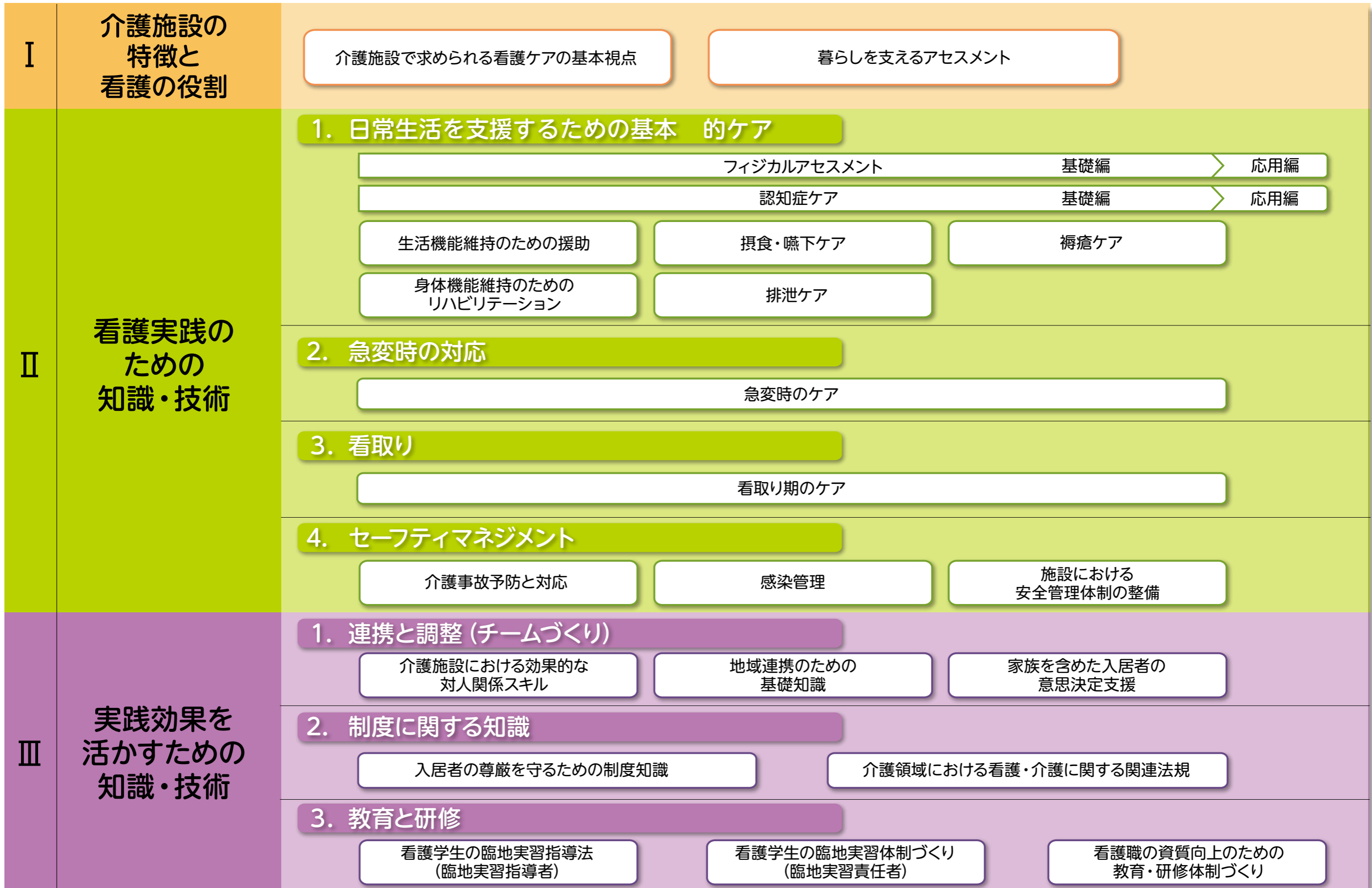
研修を複数の施設や関係団体間等で企画運営するためのツールとして、ご活用いただけます

ひとつの施設や法人組織だけで、看護職一人ひとりのニーズに合った体系的な研修を企画運営することは難しい現状があります。本研修プログラムを基に、地域の複数の施設や関係団体が連携して、地域で系統だった研修を企画する方法もあります。近隣の施設や団体が、それぞれが得意とする系統や研修項目を担当するなど、地域で協働して研修を企画運営する際にツールとしてご活用いただければと思います。また、こうした相互協力を通して、施設や組織を超えたネットワークが地域で構築されることも期待できます。

3つの系統と研修24項目

3つの系統と研修24項目

3つの系統と研修24項目



研修プログラムの項目

介護施設における看護職のための系統的な研修プログラム（実務者向け）

📖 講義 / 🎤 演習 / 🖐️ 実技

📄 レポート提出 /
🔍 理解度チェック /
🖐️ 実技チェック

		①目的	②到達 目標		③実施形態と内容	④到達目標に関する 評価方法	⑤所要コマ数 90分=1コマ		
I 介護施設の特徴と看護の役割	介護施設で求められる看護ケアの基本視点	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉の基本理念を理解する ●介護施設の看護職として多職種と効果的に協働する 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本理念として、自立支援、個人の尊厳の保持、入居者の自己決定、ノーマライゼーション等が理解できる ●介護施設職員として求められる倫理観、入居者の尊厳の保持や自立した日常生活支援の実践について、事例を通して理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●入居者の複合的なニーズ（保健・医療・福祉にかかわる）に対応するため、多職種協働の必要性について理解することができる ●施設における看護職と介護職の協働の在り方について理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：福祉の理念、ノーマライゼーション等 🎤 演習：多職種協働の実践（医行為等） 	📄 レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義1 ●演習1 		
	暮らしを支えるアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ●施設職員の使命は入居者の生活支援であることを理解し、看護職として入居者一人ひとりに対し生活の場における支援を行う ●生活をアセスメントする 	<ul style="list-style-type: none"> ●入居者の生活支援が具体的に理解できる ●入居者が生きてきた時代・文化が理解できる ●入居者の日々の暮らしが理解できる ●入居者の置かれている状況や家族の気持ちを理解できる ●入居者と職員、入居者同士の関係について、理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活の場の看護職として、治療や回復にむけた発想だけではなく、老いによる衰えや死は避けられないことを理解し、支援することができる ●入居者の生活をアセスメントし、介護支援や生活支援に反映させ、評価ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：介護施設の特徴、生活支援の意義、生活を構成している要素、生活支援の基本、生活支援の内容等 	📄 レポート作成	●講義2		
II 看護実践のための知識・技術	1 日常生活を支援するための基本的ケア	フィジカルアセスメント	基礎編	<ul style="list-style-type: none"> ●加齢に伴う身体・精神機能の変化を踏まえ、入居者の健康状態を適切な方法でアセスメントする 	<ul style="list-style-type: none"> ●加齢に伴う身体・精神機能の変化が理解できる ●入居者によく用いられる身体・精神機能および生活機能のアセスメント方法が習得できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●フィジカルアセスメントに用いる技術（聴診、触診、打診等）が修得できる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：入居者の身体・精神機能の特徴、心身および生活機能のアセスメント方法 🖐️ 実技：聴診・触診・打診、機能検査（MMSE, HDS-R） 	<ul style="list-style-type: none"> 🔍 理解度チェック 🖐️ 実技チェック（認知機能テスト・聴診・触診・打診等） 	<ul style="list-style-type: none"> ●講義1 ●実技1
		応用編	<ul style="list-style-type: none"> ●入居者によくみられる疾患や症状について身体の各系統ごとに熟知し、状態変化における判断と対応を適切に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ●身体各系統ごとの疾患のなかでも、入居者に特徴的な症状・予測される変化が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●急変時の観察事項を理解し、緊急性の判断ができる ●他スタッフへの具体的指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：入居者における身体の各系統ごとの病歴の取り方、症状の捉え方について 🎤 演習：事例検討 	📄 レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義1 ●演習2 	
	認知症ケア	基礎編	<ul style="list-style-type: none"> ●「パーソン・センタード・ケア」の理念を踏まえたケアを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症の基本的知識が理解できる ●入居者の殆どが認知症のある入居者であることを理解し、ケア提供ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症のある入居者の行動、生活状況を的確にアセスメントする ●認知症のある入居者の特徴（行動・環境・思いなど）を踏まえ、尊厳を尊重した支援方法が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：パーソン・センタード・ケアの理念、認知症ケアにおける看護の視点・生活の視点・コミュニケーション技術等 🎤 演習：事例検討（事例に基づき看護計画立案、症状に対するケアの検討を行う） 	📄 レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義1 ●演習1 	
		応用編	<ul style="list-style-type: none"> ●専門的な見地から治療とのバランス、異常の早期発見、ターミナルケア、家族への支援等について、尊厳ある生活を支援する役割をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族の負担・思いを理解し、一人ひとりの入居者に合った適切な支援ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症のある入居者にふさわしい環境の調整を行い、安全なケア体制を提供することができる ●多職種で協働したケアが実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：認知症のある入居者のリスクマネジメント等 🎤 演習：事例検討（事例を通して、連携機関及び情報共有の方法を考える） 	📄 レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義1 ●演習1 	
	生活機能維持のための援助	<ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の中で、入居者が有する能力を最大限に引き出すための援助を実践する ●生活の場での看護・介護技術について理解し、実践する ●入居者の自立性の向上と介護負担軽減、また、双方の安全性の向上の観点から、介護施設での福祉用具の活用方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活リハビリの考え方を理解し、実践できる ●生活の場での介護技術として、入居者の能力を生かした起居動作（寝返り・起き上がり・ベッド上での移動・ベッドからの立ち上がり）、移乗方法（立位・座位・リフト）、食事ケア、入浴ケア、排泄ケア等について理解し、実践できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●重度の入居者を長期間ケアする生活の場としてシーティングの目的と効果、またノーリフティングポリシーが理解できる ●福祉用具（モジュラー型車椅子・リフト・3モーター介護ベッド・トランスボード・ポジショニングピロー等）の必要性を理解し、活用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：生活リハビリ、シーティング、ノーリフティングポリシー等 🖐️ 実技：起居動作、車椅子への移乗、生活機能を維持するための食事・排泄・入浴に関する援助方法、ポジショニングピローの使い方等 	<ul style="list-style-type: none"> 📄 レポート作成 🖐️ 実技チェック（施設で使用する福祉用具の活用方法、ポジショニング等） 	<ul style="list-style-type: none"> ●講義1 ●実技2 		
	身体機能維持のためのリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●入居者が有する能力を最大限に引き出すことができるよう、生活に根差した身体機能訓練を実践する ●入居者の安全と身体機能を活かし、かつ介護負担の軽減がはかれるような福祉用具の活用方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●入居者の安楽、安全性の確保、介護負担軽減のための介助方法について理解し、指導できる ●入居者の自立性の向上、安全性、尊厳の保持の観点から、適切な福祉用具の選択、使用ができる ●介護保険制度下での目標指向的な個別リハビリテーション計画が立案できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険制度下における機能訓練は、ICF（国際生活機能分類：International Classification of Functioning, Disability and Health）概念に基づき、多職種が協働して、入居者本人の主体性を重視し、生活機能を向上する目的があることを理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 📖 講義：ICF概念、目標指向的個別リハビリテーション等 🖐️ 実技：施設で使用する福祉用具の活用 	📄 レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義2 ●実技1 		

研修プログラムの項目

介護施設における看護職のための体系的な研修プログラム（実務者向け）

📖 講義 / 🎤 演習 / 🖐️ 実技

📄 レポート提出 /
🔍 理解度チェック /
🖐️ 実技チェック

		①目的	②到達 目標		③実施形態と内容	④到達目標に関する 評価方法	⑤所要コマ数 90分=1コマ	
研修プログラムの項目 II (続) II 看護実践のための知識・技術	(続) 1 日常生活を支援するための基本的ケア	摂食・嚥下ケア ●嚥下の機能とメカニズムについて理解する ●口腔内ケアの必要性を理解し実践する ●胃ろうの管理方法と適応について理解する ●胃ろうを持つ入居者の問題に対して、具体的な援助方法を理解する	●摂食・嚥下に関する基本的な知識について理解できる ●加齢に伴う摂食、嚥下の機能の変化について理解できる ●経管栄養法および静脈栄養法の種類について理解できる ●栄養剤の注入方法と種類が理解できる ●安全な栄養剤の注入手技とポジショニングが理解できる ●胃ろう造設の対象となる状態・種類・特徴、胃ろうのメリットとデメリットが理解できる	●胃ろう造設後の観察ポイントを理解し対応することができる ●自己抜去への対処方法が理解できる ●胃ろうを造設した入居者の問題について、アセスメントすることができる ●胃ろうを造設した入居者の問題に対して、継続的なケアが提供できるように、ケアプランを立案し、チームへ指導できる	📖 講義：嚥下の機能とメカニズム、胃ろうの種類と特徴、胃ろう造設後の観察のポイント等 🎤 演習：事例検討（事例を通して、胃ろうを持つ入居者についてアセスメントし、ケアプランを立案する） 🖐️ 実技：栄養剤注入の手技、ポジショニングの考え方と方法、栄養剤の種類と選択等	📄 レポート作成 🖐️ 実技チェック（栄養剤注入、ポジショニング等）	●講義1 ●演習1 ●実技1	
		排泄ケア ●泌尿器系の解剖、病態生理を理解する ●排泄機能の低下がみられる入居者の尊厳を守る役割を理解する	●排泄に関する基本的知識について理解できる ●加齢に伴う排泄機能の変化・病態生理が理解できる ●排泄障害に関するアセスメントとケアの展開が理解できる	●生活に密着した排泄ケアと入居者の視点に立った排泄用具の活用方法が理解できる ●排泄機能の低下への的確な支援、対応をとることができる ●排泄機能の低下がみられる入居者の尊厳を守る役割について、理解し、実践する	📖 講義：排泄のメカニズム、入居者の特徴、疾患別特徴、ケアの基本、ケアの実践、補助用具の選び方等 🎤 演習：事例検討（事例に基づき症状に対するケアの検討） 🖐️ 実技：オムツの選び方と使い方、補助用具の使い方等	📄 レポート作成 🖐️ 実技チェック（オムツの選び方・使い方、補助用具の使い方等）	●講義1 ●演習1 ●実技1	
		褥瘡ケア ●褥瘡の発生要因と病態生理を理解する ●褥瘡治療環境を整えるための知識を理解する ●褥瘡予防・治療方針について、多職種で協働、連携を図る	●褥瘡の発生要因と発生過程が理解できる ●入居者の褥瘡形成の要因が理解できる ●褥瘡の治療過程と治療方法が理解できる	●褥瘡治療環境を整えるための体位について理解できる ●多職種へ、褥瘡の予防・治療方針・ケアの方法等を指導できる	📖 講義：褥瘡の発生要因と発生過程、治療過程、治療方法等 🎤 演習：事例検討（事例を通して、褥瘡形成がみられる入居者についてアセスメントし、ケアプランを立案する） 🖐️ 実技：褥瘡予防のためのポジショニングの考え方と方法、福祉用具の種類と選択	📄 レポート作成 🖐️ 実技チェック（褥瘡予防のポジショニング等）	●講義1 ●演習1 ●実技1	
	2 急変時の対応	●高齢者の状態変化の特徴を理解する ●急変時における症状を理解する ●急変を予測した健康管理を行う ●急変時に入居者、家族、医療機関等と円滑な対応をするために、看護職と介護職の連携体制強化が重要であることを理解する ●介護職の観察と報告が正確かつ詳細に行われるような体制を整備する	●バイタルサインをアセスメントし、健康状態が評価できる ●急変リスクの予測と観察ができる ●症状別の急変症状と対応が理解できる ●介護職とともに、状態急変時の初期対応が行える ●医療機関との連携体制が構築できる	●急変時のマニュアル・手順書が作成、修正できる ●介護職から、正確な情報が報告される仕組みを作ることができる ●急変を予測した看護の情報をチームで共有する仕組みを作ることができる ●家族への事前対応が必要な事項を整理し、チームで共有する仕組みを作ることができる	📖 講義：高齢者の状態変化の特徴について、状態変化のサインとなる症状について、急変時マニュアルおよび手順書について 🎤 演習：事例検討（自施設のマニュアルなどの見直し等） 🖐️ 実技：心電図のとり方、瞳孔の測定等	📄 レポート作成 🔍 理解度チェック	●講義2 ●演習2 ●実技1	
		3 看取り	●看取り期にある入居者および家族の意思を尊重しながら多職種で協働し、安らかな最期を迎えられるよう支援する ●家族等が果たすことができる役割を支援する ●遺族へのグリーフケアができる	●緩和ケアの概念が理解できる ●介護職等へ現在の入居者の心身の状態について説明できる ●家族へ現在の入居者の心身の状態について説明できる ●患者の権利と意思決定の支援の方法が理解できる	●看取りのための多職種協働の方法、関連する制度や社会資源の活用方法が理解できる ●看取りの先行事例から、その人らしい看取りケアを考えることができる ●死にゆく過程にある入居者及び家族への支援を理解し具体的に支援できる ●旅立ちの時にその人らしいエンゼルメイクが出来る	📖 講義：意思決定の支援等 🎤 演習：事例検討（その人らしい看取りケアとは、症状マネジメント、グリーフケア、多職種との連携・調整等）	📄 レポート作成	●講義1 ●演習2
		4 セーフティマネジメント	●介護施設における安全管理のあり方を理解し、介護事故予防に向けた組織的な取り組みに参画する ●安全管理における看護職の責務について理解する	●介護施設における事故の特徴が理解できる ●事故防止に向けた体制整備の必要性について理解できる	●PDCA サイクルを活用した事故防止の取り組みについて理解できる ●危険予知トレーニングにより危機予知能力が修得できる	📖 講義 🎤 演習：事例検討、グループワーク（危険予知トレーニング等）	📄 レポート作成	●講義1 ●演習1
	感染管理	●感染に関する基本的知識を理解する ●介護施設における感染対策について理解する ●感染予防、感染対策に対して具体的に実践する	●介護施設の特徴的な感染リスクが理解できる ●標準予防策と感染経路別予防策が理解できる	●感染管理の体制を整備する必要性が理解できる ●感染予防策、感染対策が具体的に実践できる	📖 講義 🎤 演習：グループワーク（自施設の課題を出し合い、解決策を検討する等） 🖐️ 実技：手指衛生、防護具の着脱等	📄 レポート作成	●講義1 ●演習1 ●実技1	
	施設における安全管理体制の整備	●セーフティマネジメントの基本的な考え方を理解する ●介護施設のセーフティマネジメントにおける看護職の役割を理解し、組織的な管理体制を整備する	●介護施設におけるセーフティマネジメントが理解できる ●PDCA サイクルを活用した事故防止が実践できる	●委員会運営などの組織的な管理体制を整備することができる ●施設内マニュアルを作成、修正および運用できる	📖 講義 🎤 演習：グループワーク（自施設の委員会活動など組織的な取り組みに関する意見交換）	📄 レポート作成	●講義1 ●演習1	

研修プログラムの項目

介護施設における看護職のための系統的な研修プログラム（実務者向け）

📖 講義 / 🎯 演習 / 🖐️ 実技

📄 レポート提出 /
🔍 理解度チェック /
🖐️ 実技チェック

		①目的	②到達 目標	③実施形態と内容	④到達目標に関する 評価方法	⑤所要コマ数 90分=1コマ		
Ⅲ 実践効果を活かすための知識・技術	1 連携と調整 (チームづくり)	介護施設における効果的な対人関係スキル	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションの効果的なありかたが理解できる ●ケアの実践の場での自己のコミュニケーションの課題が自覚できる ●入居者のコミュニケーションの特徴が理解できる ●他者に自分の考えを正しく伝えるスキルが修得できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●ケア実践に学びを生かしているか、自己点検できる ●施設内において孤立しがちな入居者や、認知症のために対人関係に困難があるケースへについて、介入や助言ができる 	📖 講義 🎯 演習：ロールプレイング（ケア場面やケアカンファレンス等）	<input type="checkbox"/> レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 2 ●演習 1 	
		地域連携のための基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ●健康状態の悪化あるいは要介護状態が重度になっても、安心して安定的な生活維持が可能となるような医療と介護の役割を理解する ●最適な医療・介護サービスを切れ目なく提供するために、必要な知識や制度を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●介護施設に係る制度について、最新の情報を理解し説明できる ●医療と介護を切れ目なく提供する必要性が理解できる ●地域の社会資源を具体的に活用できる ●地域で連携するために、病院の入退院時に調整が必要な具体的な内容や関係する職種が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅等への退所時に入居者・家族にとって適切な在宅支援ができる ●入居者や家族が、自宅や施設と連携するべき内容を理解したうえで、支援することができる ●連携する病院施設間において、サービスの種類、内容の情報提供・情報共有ができる 	📖 講義 🎯 演習：事例検討（事例を通して、連携機関及び情報共有の方法を考える）	<input type="checkbox"/> レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 1 ●演習 1
		家族を含めた入居者の意思決定支援	<ul style="list-style-type: none"> ●経管栄養の選択や看取りにおいて、入居者と家族に対し、正確かつ幅広い情報を提供することの重要性を理解する ●その人らしい生活ができるような意思決定を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ●介護老人福祉施設の特徴、役割を理解、説明できる ●入居前に本人・家族に説明、同意が必要な項目、内容を整理し、多職種に提示できる ●入居者の現在の状況から、今後の課題を整理し多職種と連携できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●入居者がどのような生き方および最期を望むのか等、選択肢についての自己決定を支援することができる ●胃ろうや看取り等に関する社会の動向を把握する 	📖 講義 🎯 演習：事例検討、経管栄養開始に伴う説明および急変時や看取りの意思決定場面におけるロールプレイング	<input type="checkbox"/> レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 1 ●演習 2
	2 制度に関する知識	入居者の尊厳を守るための制度知識	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の自立支援を促し、尊厳が保持され、人生の最期まで、その人らしく暮らしていけるよう看護職として支援できる ●個人情報の適切な取扱いについて理解する ●福祉・介護施設における権利擁護を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者虐待防止法（高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援に関する法律）について理解し、虐待防止や身体拘束の廃止に向けた取組みを推進できる ●成年後見制度等、高齢者権利擁護のあり方が理解できる 	📖 講義： 高齢者の尊厳が保持されたケアの確立を目指して～高齢者の権利擁護を巡る状況～等	<input type="checkbox"/> レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 1 	
		介護領域における看護・介護の関係法規	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者介護に関する法規について理解し、介護保険サービスや医行為等の根拠法令を理解した上で、看護業務を行う ●看護職と介護職の互いの専門性を理解し、より質の高い介護・看護を提供できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●介護老人福祉施設の法的な位置づけ（老人福祉法・介護保険法）が理解できる ●サービス提供の根拠となる指定介護老人福祉施設の人員・設備および運営に関する基準について理解し、施設における看護職の役割について考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●医師法及び保健師助産師看護師法等により、看護業務・医行為等の根拠法令が理解できる ●看護師・介護福祉士・社会福祉士等の法規・倫理綱領が理解できる ●施設サービス計画の作成プロセスを理解し、看護の視点を反映させ、サービス提供に活かすことができる 	📖 講義： 高齢者介護及び医療的ケアに関する法規について～看護職に求められること～等	🔍 理解度チェック （根拠法令など基礎的な事項について）	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 1
		看護学生の臨地実習指導法（臨地実習指導者）	<ul style="list-style-type: none"> ●学生の特性を理解し、看護基礎教育課程における介護施設での臨地実習の目的を理解する ●臨地実習指導者の役割を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設で受けている臨地実習の全体像が把握できる ●実習指導には誰がどの部分を担当しているか把握できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における自分の役割を把握し、実習目的が達成できるような指導が実践できる ●実習生に対して、介護施設で働く看護職の役割を示すことができる 	📖 講義 🎯 演習：グループワーク	<input type="checkbox"/> レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 1
	3 教育と研修	看護学生の臨地実習体制づくり（臨地実習責任者）	<ul style="list-style-type: none"> ●臨地実習の目的が達成されるよう、施設全体の実習体制整備を行う ●臨地実習責任者の役割を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●実習担当の教員と相互連携を図り、教育機関と自施設間の連絡調整ができる ●受け持ち入居者の選定に協力し、倫理的配慮のもと指導体制をつくることことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●円滑に実習がすすむよう、実習に係る職員等に周知する ●学生の評価、施設の実習指導体制評価を通して、自分と施設の指導体制に関する改善点を示し、施設全体で共有することができる 	📖 講義 🎯 演習：グループワーク（実際の指導場面の振り返り・組織としての指導体制の振り返り・教育機関との連携の振り返り等）	<input type="checkbox"/> レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 1
		看護職の資質向上のための教育・研修体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●入居者により良いサービスを提供するための、介護施設における看護の役割を理解する ●施設において、看護の機能を強化するための教育・研修体制および看護職のキャリア開発に必要な条件を整備をする ●専門職として自己研鑽が促進されるような環境づくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設ケアの理念を具現化するために看護職に必要な能力を確認できる ●看護職に必要な教育・研修の年間計画を立案できる ●研修の受講予定者を確定し、勤務に支障なく参加できるような体制を作ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●臨地実習の担当者が役割を果たせるよう支援できる ●看護職一人ひとりのキャリア開発を支援できる ●図書整備、学会からの情報を提供するなど、看護職が最新の情報にアクセスしやすい環境づくりをする 	📖 講義 🎯 演習：グループワーク（実際に施設理念を反映した教育・研修の年間計画を立案する）	<input type="checkbox"/> レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 1 ●演習 1

研修プログラムの活用例

本研修プログラムは、3系統24項目の研修項目をあげていますが、全ての研修項目の実施を提案するものではありません。貴施設において強化したいテーマを設定し、本研修プログラムの中から必要な研修項目

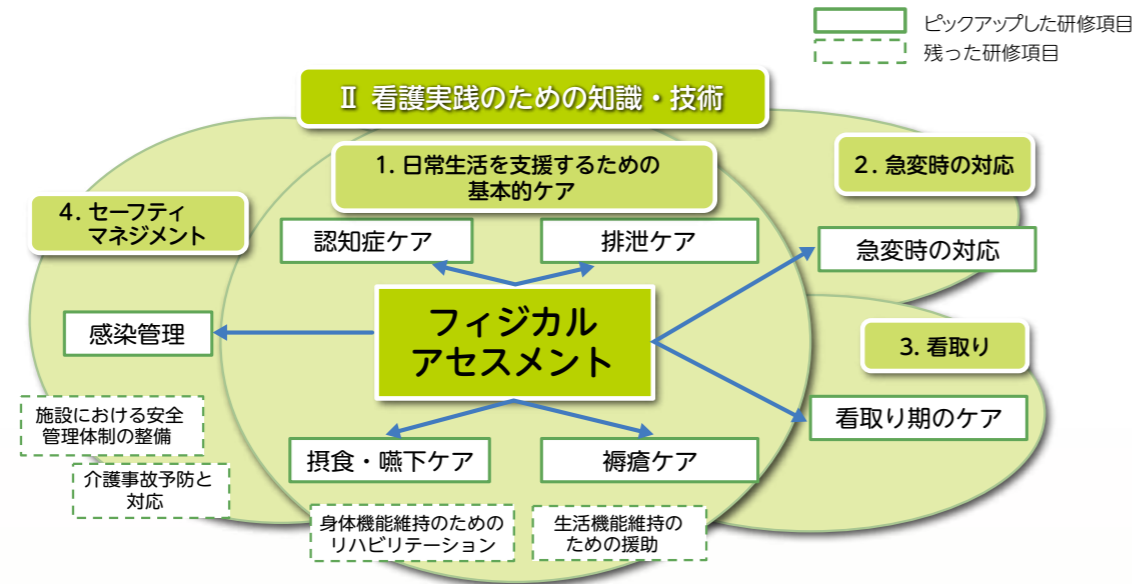
をピックアップし、貴施設での研修を組み立てて下さい。
『どのように組み立てればいいのか?』 以下活用例をご紹介します。

研修プログラムの活用例

研修プログラムの活用例

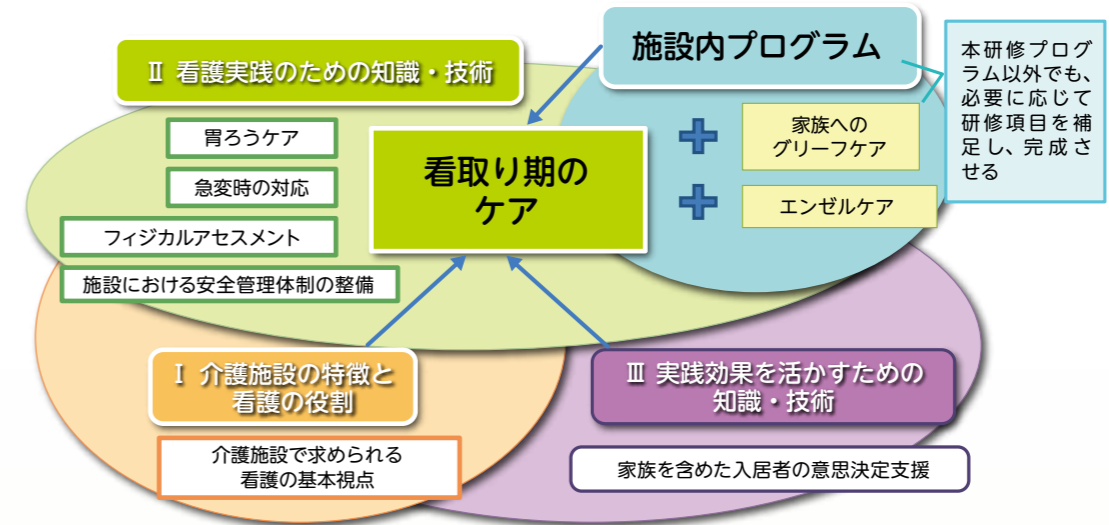
1 医療的ケアの看護実践能力を強化したいときのプログラムの組み合わせ例

「フィジカルアセスメント」をテーマとして基軸に据えた場合、それに関連して強化したい研修項目をピックアップし組み合わせ実施する。残った研修項目については、次の企画等で実施する。



3 施設における「看取り体制」を強化したいときのプログラムの組み合わせ例

本研修プログラムの「看取り期のケア」と、それに関連する研修項目を、I～III系統の中からピックアップする。更に、本研修プログラムにはないが、貴施設で取組んできた研修や、必要と考えられる研修を加える。このことによって、貴施設が従来行ってきた看取り期のケアを強化した研修を企画することができる。

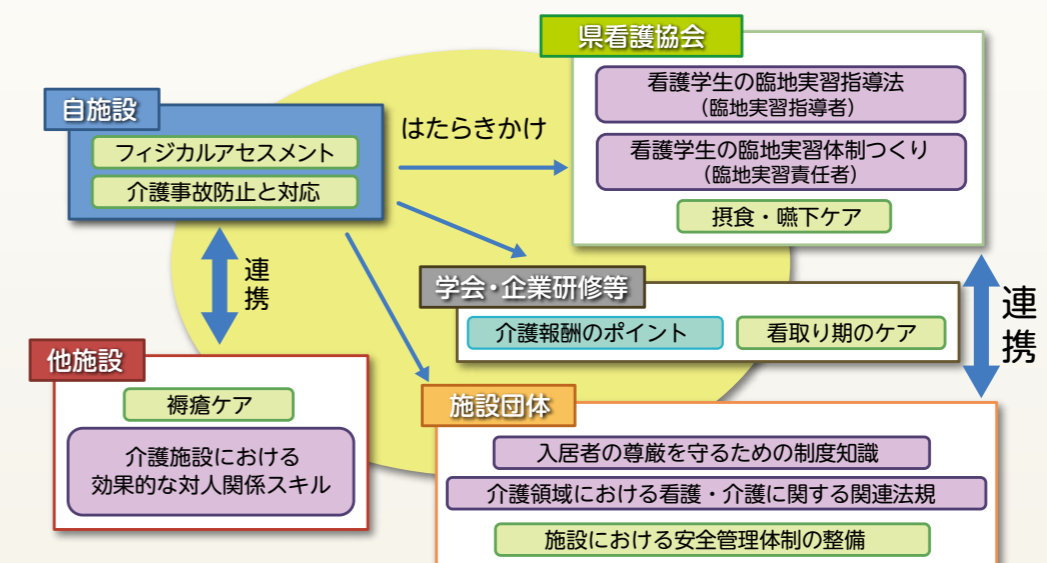


2 病院からの転職者が多いため、介護施設の特徴に応じた看護の役割を強化したいときの、プログラム組み合わせ例

「I 介護施設の特徴と看護の役割」をテーマとして基軸に据えた場合、II・III系統の中から、入居者の生活援助の基礎知識として、必要と考えられる研修項目をピックアップし、付加する。

4 他施設・他団体との協働による実施モデル

自施設だけでは、限られた項目の研修しか実施できないことが多いが、他施設や職能団体、施設団体等とそれぞれの強みを出し合い、協働・連携することによって、系統的な研修の企画運営が可能となる。



研修プログラムに関するQ&A

Q1 こんなにたくさんの研修は、とても実施できない

A 本研修プログラムは、研修項目のすべての実施を提案するものではありません。「プログラムの活用例 1, 2, 3」のように、自施設で強化したいテーマを基軸に据えたら、関連する項目をピックアップし、組み合わせて研修企画することができます。また、近隣にある他施設等と、それぞれの強みを出し合い、協力して研修企画することも可能です（「プログラム活用例 4」ご参照）。

Q2 看護職が少なく、研修へ行く時間がとれない

A 研修に参加できない理由として、休みがとれないことや、研修会場が遠いため時間がかかるといったことが考えられます。自施設のある地域で研修が開催されれば、研修へ参加できるチャンスは増えると考えられます。近いところでの短時間の研修であれば、平日でも参加が可能となります。是非、地域で効率的な研修企画をご検討ください。看護職の能力が高まれば、今まで以上に仕事の幅が広がることも考えられます。

Q3 看護職の教育背景、職歴がさまざま。知識のレベルがバラバラなので、研修の対象レベルをしばることができない

A 近隣の施設等で、同じようなお悩みがあるかもしれません。テーマや対象者をしぼり、地域で協働して同じテーマや対象者向けの研修を企画する方法もあります。地域で協働することによって、効率的に研修を運営することができ、また、参加者も研修に参加しやすくなるかもしれません。地域で連携して研修を企画運営する方法をご検討下さい。（「プログラム活用例 4」ご参照）。

Q4 看護職のスタッフにスキルアップして欲しいと思っているが、スタッフ自身が研修参加に対して積極的ではない

A スタッフ自身が何を学びたいか、どのようなスキルアップが必要と考えているか、一度お話しする機会を持つてみてはいかがでしょうか。本研修プログラムの中に関心があるものがありましたら、それを基軸に据え、関連する項目をピックアップし、研修を企画してみてください（「プログラムの活用例 1, 2, 3」ご参照）。研修の企画にあたって、スタッフと一緒に企画運営する等、能動的に関わるような体制を作ることで、スタッフの意識が変わったり、それがきっかけとなって専門的知識修得への組織的取組みが進むかもしれません。

Q5 講師になる人がいない。誰が教えるのか

A 連携している他施設や行政、状況に応じて都道府県看護協会等に相談してみてもいかがでしょうか。テーマによっては行政職員や他職種が講師となる研修項目もあります。本会のホームページにも、認定看護師、専門看護師登録者一覧がありますので、ご活用下さい。また、研修を通してスキルアップした自施設のスタッフを講師とし、自施設内で伝達講習をする等の方法も考えられます。

おわりに

本研修プログラムは、日本看護協会 看護師職能委員会Ⅱが作成した素案について、全国の都道府県看護協会 看護師職能委員会Ⅱ委員長からいただいた意見、提案を取りまとめ、作成したものです。実際に活用していただき、その成果や改善点をお寄せいただきたいと思います。

なお、本会では、特別委員会「介護施設における看護の機能強化に関する検討委員会」において、「介護施設の看護実践ガイド（案）」を作成しているところです。本会看護師職能委員会Ⅱの初年度の取組みとなる本研修プログラムと「介護施設の看護実践ガイド（案）」の活用により、介護施設の入居者がその人らしく安心して過ごせるよう、皆様と共に取組んで参ります。

公益社団法人 **日本看護協会**

看護師職能委員会Ⅱ 介護・福祉関係施設・在宅等領域

委員長： 齋藤 訓子（日本看護協会 常任理事）

副委員長： 九里 美和子

委員： 伊藤 真由美 大倉 和子 生野 繁子 関口 敬子
田口 将人 朝野 愛子 服部 美加 松木 恵子 松本 佐知子
(五十音順)

担当部署： 事業開発部

作成： 2012年5月